

原子炉水および使用済燃料プール水の地震前後のサンプリング結果

女川1号機～3号機における、地震前後での原子炉水ならびに使用済燃料プール水の測定結果は下表のとおりです。

原子炉水中のよう素131濃度測定値について、女川1、2号機では地震発生前後で有意な変化は認められておりません。また、女川3号機については、地震発生前の平成22年12月27日より、原子炉内の燃料棒の一部から原子炉水中への放射性物質の微小な漏えいの兆候が認められていたことから、漏えいの可能性がある燃料周辺に制御棒を挿入し、放射性物質の漏えいを抑制しておりましたが、地震発生後の原子炉水中のよう素131濃度測定値は、地震発生前までの測定値のゆらぎ（0.00985～0.0195 Bq/g）の範囲内と同程度であり、保安規定上の制限値と比較しても十分低い値となっております。

使用済燃料プール水中のセシウム137濃度測定値については、女川1号機～3号機のいずれも地震発生前後で有意な変化は認められておりません。

以上のことから、地震による原子炉内の燃料および使用済燃料プールの使用済燃料への影響はなかったものと考えております。

(Bq/g)

	原子炉水中 よう素131濃度		使用済燃料プール水中 セシウム137濃度	
	地震前	地震後	地震前	地震後
女川1号機 (採取日)	0.0161 (3月7日)	0.0171 (3月18日)	0.013 未満 [※] (3月7日)	0.0406 未満 [※] (3月14日)
女川2号機 (採取日)	0.00141 未満 [※] (3月8日)	0.00873 (3月18日)	0.0211 未満 [※] (2月8日)	0.0341 未満 [※] (4月19日)
女川3号機 (採取日)	0.00985 (3月11日)	0.0199 (3月15日)	0.0076 未満 [※] (3月9日)	0.0132 未満 [※] (3月14日)
保安規定上 の制限値	1.8 × 10 ³		—	

※ 検出限界値未満を示す。なお、測定の都度、測定環境が変わることから、検出限界値も測定ごとに違う値となる。